

教務だより

2015年11月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

WIN-WINの次は…

理解してから理解される

茗溪塾塾長 宇野雅春

続いていた原因不明の微熱が、高熱へと進展し、3日3晩熱に浮かされていました。はじめは、眠りの前後で「数式」が頭にこびりつき、寝起きの繰り返しの中で解けないもどかしさがずっと尾をひいていましたが、薬を変える毎にそれが些細なトラブルのことや、自分の失敗、人間関係のこと等に変化し、さらに強力な解熱剤を服用し点滴する頃には、人生そのものがとても煩わしく、自分を取り巻くものの何もかもが自分を敵視しているように思われる状態にまできてしまいました。ところが熱が下がって来ると、何でそんな風に考えてしまったのだろうか？と自分でも不思議に思うくらいになり、食欲が戻ってくると、その暗い感情は嘘のように消えてしまい、あれは何だったのだろうかと変な気分です。「健康な状態」でないと人はものごとを普通に判断できないということに思い当たりました。

受験もいよいよ本格的なシーズンに入ります。受験勉強を最も大きく阻害するのがこじれた人間関係です。学校をめぐる「いじめ」の件数も過去最高と聞いています。健康でない精神が「ラインいじめ」などを始めたら…と考えるとぞっとします。ちょっとした不用意な発言が「いじめ」へと発展することも多いようです。

昔、小6受験の生徒でしたが、学校でのちょっとした発言が、周りの反発を買いそのことが携帯でまわり、全校あげてのいじめに発展したことがありました。いじめの張本人は同じ塾生で一見おとなしい、しかもその生徒とは仲良し…？で、その子たちとは別の子の母親が娘の携帯に送られてきた「無視しよう」というメールを私に見せてくれたところから発覚しました。

それに加わってしまった同じ学校の塾生達も絶対そんなことをする生徒には見えない女の子達でした。結果はどうなったかといういじめは基本的に解決されないまま、受験に突入…。体に湿疹ができるくらいにいたぶられた生徒は、黙々と学習を重ね中学受験では最高レベルの大学付属に予想外で合格。大学進学後も暫く塾も手伝ってくれました。一方のいじめた側は、3人も受験に失敗。それぞれ望まない学校へ進学していきました。

『理解』という事に思い当たらない『反応的』な人間から発生し連鎖しながら、いじめは、訳のわからないまま拡大し増長します。結果、軽い気持ちで人を追い込む事になります。言葉尻を捕まえ反応することでそれを正当化します。自分が仕掛けたことへの相手の発言をいつの間にか相手仕掛けてきたことにして、そのことのウソも考えないので、そのうち本当のことになってしまいます。こんなばかげた泥仕合を解決するのが、「理解してから、理解される」です。

「自分が理解されない」と受験生なら誰でも思います。こんなに頑張っているのに…!親にも先生にもがみがみ言われる…!と切れる人はいませんか？

そんなに頑張っていたら、誰もが君を責めたりはしないはずですが。でも君としてはこんなにやっているのに…!と思うわけです。自分の事しか見えないから…。親はもっと大変かもしれないとかは全く考えません。社会で働く厳しい側面など、わかっているようで、実はわかっていないことだらけのはず!自分の事で誰かに恨みを持ったなら、相手にわからせる前に、相手のことを理解する努力をしませんか。多分、トラブルは避けられるはずですが。

お互いの違いを尊重し互いの主張を取り入れた第3の道が切り開けたとき、「相乗効果」が生まれます。想像を超えた大きな成果がそこには生まれます。受験の大成功は、チームのメンバーが本当の意味で信頼し合えるWIN-WINの関係になれたときに起こります。今必要なことと将来に役立つこと。人生を成功に導く方法として「理解してから理解される」を今から習慣化していく(かなり難しいけれど)事をおすすめしたい…。今を乗り切るためにも、そして将来のためにも絶対必要な第5の習慣です。